

しらさぎ

第208号

令和4年3月15日 発行

一般社団法人 鶴岡地区医師会

鶴岡市立湯田川温泉
リハビリテーション病院
広報委員会

山形県鶴岡市湯田川字中田35-10

TEL 0235-38-5151

FAX 0235-38-5152

<http://tsuruoka-med.jp/yutagawa/>

E-mail yutagawa@orion.ocn.ne.jp

鶴岡市立湯田川温泉
リハビリテーション病院の
基本理念

私たちは、患者・利用者の皆様の尊厳と自己決定権を尊重し、
心の通った医療、介護とリハビリテーションを提供します。



水野 歳子さん

ひなまつり



富樫 正美さん(101歳)

デイケア利用者さんの作品です。



当院は、(公財)日本医療機能評価機構の定める認定基準を取得しています。

令和3年度 入院患者満足度調査結果報告

当院では、入院患者の皆さんの医療サービスに対する満足度を把握し、よりよいサービス提供を目的として、毎年「入院患者満足度調査」を実施しています。

今年度実施しました調査結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

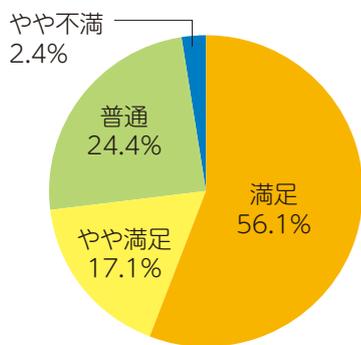
なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、患者さんへの面会制限などを実施させていただいております。患者さん・ご家族の方へ大変ご不便をおかけしておりますが、感染予防対策の一環の取り組みとしてご理解とご協力をお願いいたします。

【実施概要 および 評価方法】

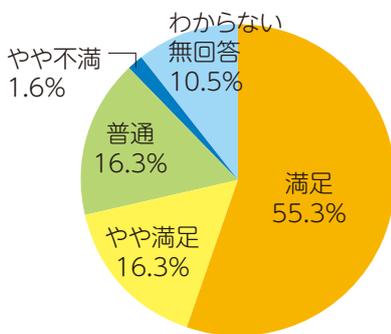
- 調査対象：調査時点で当院入院期間が3週間以上の患者さん全員(64名)
- 調査方法：アンケート用紙に返信用封筒を同封して配付。無記名回答方式で実施。
- 回収数：41名(回収率:64.1%) 回答割合:ご本人10名(24%) ご家族31名(76%)
- 評価方法：「満足、やや満足、普通、やや不満、不満、わからない・無回答」の各項目の合計を回収数で割った数値で評価しています。

★病院全体についての評価、また職種ごとに患者さんに対する態度や言葉遣い、相談・質問のしやすさ、説明の仕方などをお聞きしました。

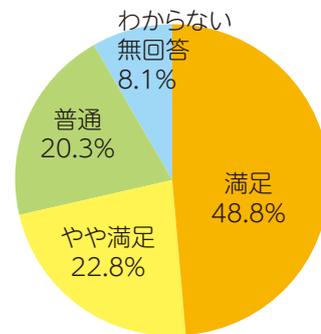
★病院全体について



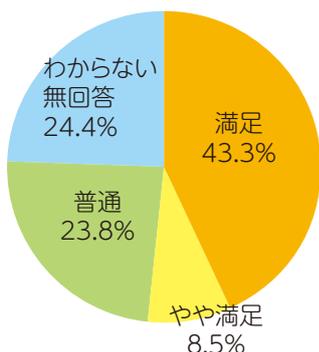
★医師について



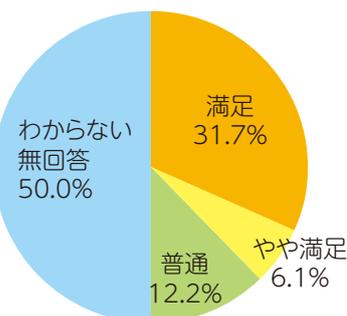
★看護、介護職員について



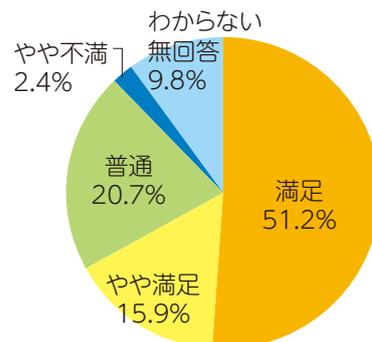
★リハビリスタッフについて



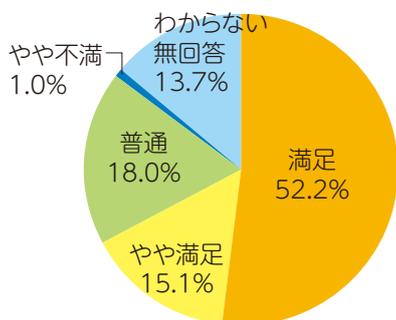
★他の専門職について



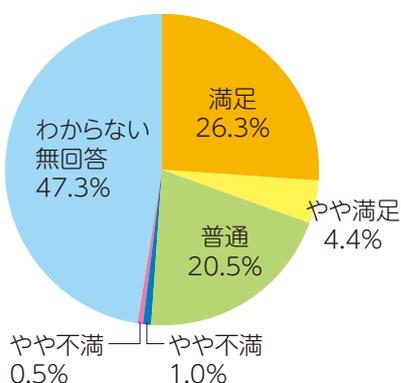
★事務職員について



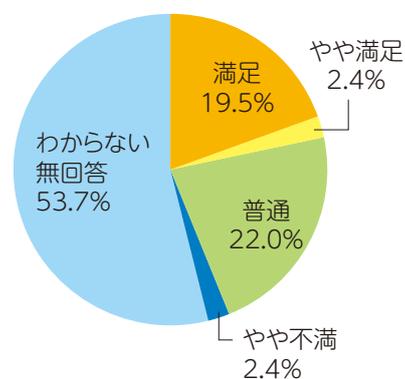
★入院時の電話連絡、
入院中の相談・退院支援
について



★生活環境、駐車場について



★売店について



回答総数 369 件のうち、各項目に「満足」「やや満足」の評価をいただきましたが、「やや不満」10件、「不満」1件の回答もございました。

いただいたご意見・要望については全職員で共有し、対応策の検討および改善に取り組み、より皆様にご満足いただける病院となるよう、さらなる努力を重ねてまいります。

また多くのお褒めのお言葉・評価をいただき、スタッフ一同の励みとなりました。

アンケート調査にご協力いただきました患者・ご家族の皆さん、ありがとうございました。



行事食のご紹介

3月1日は当院の21回目の開院記念日です。開院をお祝いし、特別メニューと祝いまんじゅうを提供しました。

また、3月3日～9日の期間で、入院患者さんには、ひなまつりメニューと雛菓子、デイケアではひなまつりメニューに加えて、桜の花を添えた甘酒ゼリーを行事メニューとして提供しています。



【3月1日 開院記念日昼食】



【3月3日 ひなまつり献立】

【ひなまつりデイおやつ (甘酒ゼリー)】▶



院内研究発表会

当院では毎年、職員が日常業務の中で調査・研究した成果を報告する院内研究発表会を開催しています。今年度は2月24日に開催し、発表された4題をご紹介します。



認知症ケアラウンドを活かしたチーム医療とは

第1病棟 伊藤 亜津佐 佐藤 貴子

当院では認知症ケアチームを中心に認知症ケアラウンドが行われている。しかしラウンドで検討された内容は全体へ上手く周知が行えずラウンドが活かされていない現状があった。よりラウンドを活かしたケアに繋がれるよう、伝達方法の工夫・ラウンド表の見直しを実施した。アンケート調査から不足に感じている情報の収集を行い、ベッド周囲やケアワークシートを活用してラウンド結果を表示した。また病棟独自のラウンド表を作成し、ラウンドの結果を多職種の視点で周知するよう取り組んだ。その結果、職員個々のアセスメント能力や意識の向上が図られた。今後もそれぞれの職種の視点や知識を活かし、多職種でラウンドに関わる働きかけを行い、統一した認知症ケアにつなげていく必要がある。

～当院の地域包括ケア病床入院患者の現状と在宅復帰率向上に向けた対策の検討～

第2病棟 齋藤 典子 斎藤 涼子

地域包括ケア病床とは、平成26年度の診療報酬改定で新たに設けられた病床の種別であり、急性期医療と在宅をつなぐ亜急性期医療の役割が期待されている。当院では令和2年度に地域包括ケア病床を設置し、今年で2年目になる。今回、在宅退院者と在宅以外への退院者の特徴を比較・分析することで在宅復帰率向上に向けての課題を明確にし、更なる向上を目指すため本研究に取り組んだ。研究結果から、在宅復帰率向上のためには、入院時から必要な医療を提供すると同時に、在宅に帰ることを念頭に多職種で連携し、早期から退院支援に取り組んでいくことが重要だということが分かった。今回の研究を来年度へと引き繋ぎ、地域との連携を図りながら、住み慣れた環境で生活できるよう、取り組んでいきたいと思う。

当病棟食堂の感染予防策の現状と対策

第3病棟 山田 晃二 小野寺 絵美

今回私たちは、病床以外で多くの時間を過ごす食堂に目を向け、しっかりと清掃ができているのか、環境整備の方法について問題点を明らかにしたいと考えた。また、統一した環境整備方法を実施することで生菌数が減少し、患者にとって快適で清潔な生活環境を提供したいと考えた。

結論としては、統一した環境整備方法を実施することで、生菌数は減少した。また速乾性手指消毒の励行は、感染予防に効果的であると推測できた。しかし、清掃場所の構造の問題や清掃の仕方によっては、洗浄むらや拭きむらが考えられた為、今後、さらに生菌数が減少し、患者にとって快適で清潔な生活環境を提供できるよう、統一した環境整備手順を実施するために、清掃のデモンストレーションなど定期的な手技の確認や勉強会の充実を図っていく必要があると考える。

当院における自宅退院患者への ホームプログラムの提供と実施状況について

リハビリテーション課 理学療法士 大場 寛乃
理学療法士 茂木 千碩
作業療法士 丸山 美也子

当院では退院支援の一つとしてホームプログラム^{※1}表を提供している。本研究では2019年から1年間に回復期リハビリテーション病棟からの自宅退院患者を対象にホームプログラムに関する調査を行った。ホームプログラムの提供率は53.8%であり、提供群では非提供群と比べ入退院時FIM^{※2}認知項目とMMSE^{※3}、退院時・現在FIM移乗・移動の得点が有意に高く、要支援・非該当者、運動習慣を有する者が有意に多かった。ホームプログラムの継続率は67.9%であり、継続群では非継続群と比べ入退院時FIM認知項目が有意に高く、要支援・非該当者、運動習慣を有する者が有意に多かった。本研究の限界として、ホームプログラムの提供の有無に関して対象者を同一条件で選択していない点が挙げられる。リハビリテーション担当者は患者の認知機能や動作能力に合わせ運動内容や負荷量を検討したり、運動習慣を維持できるよう協力が得られる場合には家族やサービス利用先へも情報提供している。今後もホームプログラムや情報の提供を継続していくことで身体機能・動作能力の維持・向上へ繋がると考える。

※1 ホームプログラム…退院後、患者さんに行ってもらいたい体操や運動の方法を示したもの。

※2 FIM…日常生活で行っている動作を点数で表したもの。得点が高いと自立度が高い。

※3 MMSE…記憶や見当識等、認知機能を調べる検査のひとつ。30点満点で評価。

肩・腕の体操をしてみよう! ②

今回紹介する運動は、肩や肘の関節が硬くなったり、腕全体の筋肉が弱くなったりしないよう行う体操です。腰掛けて行う体操ですので、椅子など安定性のあ
るものに腰掛けて行うようにしましょう。また背もたれやひじ掛けがあるもの
でも行うことができますので、ご自身の体調などに合わせて行いましょう。

①腕の上げ下ろし



棒や長タオルを準備する

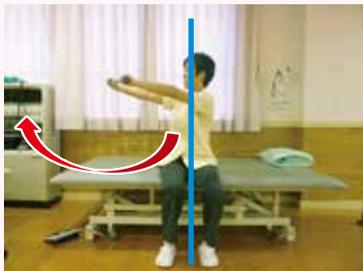
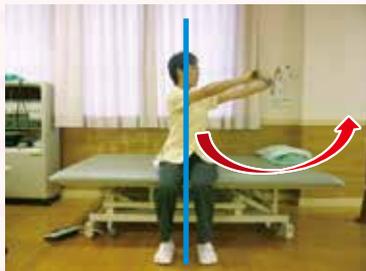


腕を大きく上にあげる



足首を目安に
ゆっくりと下にかがむ

②体を捻じる



肩の高さに手を挙げ、挙げた手を左右にゆっくりと捻じる

③背中から手を離す



手を(棒を)背中に回し、背中から離したり近づけたりする



あと

がき

今年は雪が多く大変な年でしたが、ようやく春の兆しを感じられるようになりました。職場の異動・転勤や卒業など、新生活が始まる時季ですね。気持ちを新たに、春の訪れを楽しみに待ちたいと思います。

